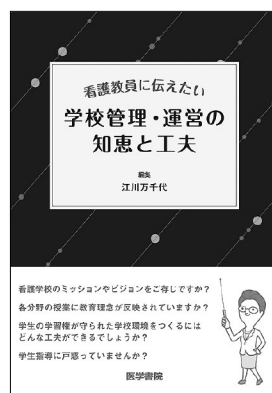


『看護教員に伝えたい学校管理・運営の
知恵と工夫』専門学校を職業教育のみな
らず人間教育の場としてい
く工夫が満載

編集：江川万千代／定価：本体 2,800 円＋税

発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



看護師養成の歴史は、1951(昭和26)年指定規則制定に遡る。当時は、医学モデル中心の看護教育であり、看護は医師によって教授されていた。その後、第4次のカリキュラム改正を経て今日の看護教育がある。この間、われわれ看護教員は、看護師が学校長として看護学校を管理・運営し、次世代を育て上げる日がくることをどれほど鶴首して吉報を待ち望んでいたことだろう。

編著者の江川万千代氏は、昭和から平成の看護教育イノベーションにおいて、理論知と経験知を英知として先陣を走ってこられた。その英知がこの本に集約されている。この本には、看護教員自身が看護学校の経営・運営に積極的に関与することの重要性や、看護学校運営のコアであるカリキュラム、自己点検・自己評価、そして学習者である看護学生の学習権と倫理的配慮、看護教員として身に着けたい能力に関する知恵と工夫が詰まっている。思わず、「フムフム、ナルホド、ソウソウ」とつぶやきながら夢中になって読み進める。特に事例の紹介では、江川氏と共著者の鮫島陽子氏や小川恵美氏をはじめ、職員のみなさんのご苦労とあきらめない情熱と看護学生への愛情を感じる。看護教育の現実が赤裸々に記述されているが、そのなかに志と情熱を感じるのである。

看護学校は、看護専門職を育てる職業教育の側面と一人の成人としての人間成長を育む側面をも

つ。著者らは、そういった成人学習者の学習権・知る権利を尊重するという信念のもと、カリキュラムだけでなく、学習環境を整えるということを大切にされている。特に、図書教材の環境には多くの知恵と工夫が施されている。看護学生にとって図書室がオアシスとなるという発想は早速見習おうと思う。図書司書を配置し、日本看護図書協会に加入し、多くの資源を提供しよう試みている。学生がそういった環境のなかで自ら学習できるようになれば最高の学習支援といえよう。学習者にとってのオアシスとは、そういった環境をいうのであろう。

江川先生はじめ、看護の先人たちの営みは、見通す力、“foresight”という言葉を思い起こす。2025年および2040年問題の渦中、看護実践者、看護管理者として活躍する人材となる現代の看護学生にも、このような力を養ってほしい。よき書物に囲まれ大いに学ぶことが整った環境は生涯学習力の基盤となる。そういう愛情が注がれ育った看護学生から湧き出す愛情が看護の対象に注がれていくはずだ。この本にみられる江川氏のこれまでのご活躍は私たちのバイブルである。看護教育にこれから携わる新人看護教員のみならず、中堅看護教員や看護教育管理者のみなさんにもお勧めしたい。きっと、志と情熱と、そして看護教育に携わるものとしての誇りを感じる一冊となる。